

第4期久留米市障害福祉計画（案）に対する

パブリック・コメントの結果について

平成27年2月2日（月）から平成27年3月3日（火）までの期間で第4期久留米市障害福祉計画（案）についてのパブリック・コメントを実施し、市民の皆様からのご意見を募集していましたが、その結果及び意見に対する回答がまとまりましたので、ご報告いたします。

なお、意見の内容につきましては、原文を一部要約しております。

1 意見提出 17件（9名・1団体）

2 提出方法

方法	人数・団体数	意見の件数
インターネット	3	3
ファックス	7	14
計	10	17

3 意見の内訳

区分	意見の件数
第1章 計画の策定にあたって	5
第2章 平成29年度に向けた目標の設定	9
第1 成果目標について	1
第2 活動指標について	8
第3章 計画の進行管理	0
資料編（別冊）	0
その他	3
計	17

4 意見の概要とそれに対する市の考え方

第4期久留米市障害福祉計画（案）に対するご意見の趣旨と市の考え方は、次のページ以下のとおりです。

第4期久留米市障害福祉計画（案）に対する意見及び市の考え方

第1章 計画の策定にあたって

No.	意見者	該当ページ	意見の概要	市の考え方
1	70歳代男性	2	<p>本計画案では、5つの基本的視点が設定されており、久留米市の障害者の置かれている現状を見たときに妥当な設定ではないかと思う。</p> <p>特に、視点1の中で地域生活拠点の構築というのが目新しく斬新な計画であり、実施にあたってはぜひ久留米市の英知を集めて良いものを作っていただきたい。</p>	<p>地域生活拠点については、国の基本指針によって今次の計画から成果目標に位置づけることとされた取組みです。入所施設等の核となる施設を中心に整備を図るものやグループホーム、相談支援事業所等、事業所の連携によりその機能の整備を図るものが想定されます。具体的な検討は、これからとなりますが、先進事例等を踏まえながら、障害のある方やその家族の安心が高まる制度作りに取り組んでいく必要があると考えます。（原案のとおり）</p>
2	50歳代女性	2	<p>親無き後に子供が安心して過ごせる住家を増やして欲しい。</p>	<p>親亡き後の生活の支援は、大変重要な課題と認識しております。特に生活の基盤となる居住場の確保については、本計画（案）の上位計画の「第2期久留米市障害者計画」において重点施策と位置づけるとともに、本計画（案）でも、それを踏まえた数値目標を設定しました。</p> <p>また、国の基本指針では、新たに地域生活支援拠点の構想が示されていますが、居住の場のみではなく、相談支援や日中活動など、総合的な支援が可能となる仕組みづくりが必要であると考えます。（原案のとおり）</p>
3	50歳代女性	2	<p>計画の基本的視点5について。 乳幼児期からの一貫した体制の実現のため、「子どもセンター」設立を希望する。 今、幼児研究所・発達外来・発達相談・保健所などいくつかの相談窓口があるが、すぐに対応できず、何ヶ月も待たなければならない。その間の親の心配や苦しみは大きく、せつかく思い切って足を踏み出したのに、受け入れる場所がないということは、安心して暮らしていけるまちとは言えない。 自分の経験から、専門的支援とともに、同じ障害をもつ親との出会いが大きな支えになった。センター機能の中に、ピアカウンセリングの機能を入れ、初回の相談を待つ間に、週1回ぐらいのペースで（曜日で障害傾向を決めて）話が出来るサロンのようなスペースがあると、親が孤立して辛い思いをしなくてすむかと思う。</p>	<p>乳幼児期から学校卒業までの一貫した支援体制の確立については、「第2期久留米市障害者計画」において、「切れ目のない療育・教育体制の確立」として重点的施策と位置づけています。</p> <p>関係部局の連携によって、今後、必要とされる機能やその枠組みの検討を行い、支援体制の確立を図ってまいります。（原案のとおり）</p>
4	50歳代女性	2	<p>乳幼児期から一貫した効果的な支援を提供する体制を整えてほしい。</p>	No.3に同じ。
5	50歳代女性	2	<p>子ども支援センター設立の実現。</p>	No.3に同じ。

第2章 平成29年度に向けた目標の設定

第1 成果目標について

No.	意見者	該当ページ	意見の概要	市の考え方
6	60歳代女性	5	<p>地域生活支援拠点として、グループホーム+ショートステイ+体験宿泊など多機能な取組みのできる場所が必要。コーディネーターが一人一人に対応できる細やかな支援や、支援をする側のスキルアップ相談にもものことができる場として、各所に作るべきだと思う。</p> <p>社会福祉法人の地域での取組みの中で外に出ていくことができるのが、これからの久留米市の障がいのある人たちにとって大切なことになると思う。</p>	No.1に同じ。

第2 活動指標について

No.	意見者	該当ページ	意見の概要	市の考え方
7	50歳代女性	12	自立を促すために学童期の定期的な宿泊体験の機会を作ってほしい。	短期入所は、グループホーム等における自立した生活の慣らしの場として、重要な機能を担うものと認識しています。併設型短期入所の利用定員数は現在30人です。入所施設やグループホームに空きがあるときに利用できる空床型短期入所は、定員の確保が不安定となることが課題ですので、固定的な利用定員を確保できる併設型短期入所の必要性を踏まえ、数値目標を設定しています。（原案のとおり）
8	50歳代女性	12	ショートステイの場を増やしてほしい。	No.7に同じ。
9	50歳代女性	12	将来をみすえ、子供たちの宿泊体験の場を増強してほしい。	No.7に同じ。
10	50歳代女性	12	重度障害の宿泊の場の増強を願う。	医療的ケアを伴う重度障害者の宿泊については、事業所の人員配置等の問題もあり対応が可能な事業所が限られています。重度障害者及び家族の地域生活支援のため、さらなる受入体制の整備が必要と認識しており、医療型短期入所の重要性に配慮した数値目標を設定しました。（原案のとおり）
11	団体	15	<p>基本的視点2にグループホームの居住の場の確保の充実を掲げ、サービス見込量も意欲的な数値を計上していることは、率直に評価できると思う。</p> <p>ただ、入居者数を増加するためにはグループホームの数が必要不可欠であり、そこが重要な点である。</p> <p>現在、スプリンクラー等消防法や建築基準法による規制が厳しくなっていることなどもあり、グループホームの新設は難しいというような雰囲気がある。</p> <p>そこで施設整備費などの活用だけでなく、ありとあらゆる方策を駆使して事業所がグループホームを作ってみようと思われるような環境作りをお願いしたい。</p> <p>例えば、公営住宅の活用、民間の空家住宅の活用、雇用促進住宅の活用など、創意工夫して何とか実現していただきたい。</p>	<p>本計画（案）では、活動指標において、グループホームの重要性に配慮した数値目標を設定しました。</p> <p>施設整備補助は、初期費用の負担を軽減し施設の設定を促すものです。グループホームについては新築のみではなく既存住宅の改修にも対応した制度となっています。本市の財政的な制約はありますが、市内のグループホームの整備状況をみながら積極的にこの制度の周知を図り、整備を促進していきます。</p> <p>なお、市営住宅のグループホーム利用については、現在の消防関連の法令のもとでは制約が大きく、限られたケースでのみ実現が可能と考えられます。</p>
12	50歳代女性	15	<p>グループホームを利用したい方が今後も増えていくと思う。各校区内に一つでもあれば親も安心して預けられると思う。</p> <p>今は社会福祉法人が運営している所が主だと思いますが、NPO法人でも安定して運営していける様な支援をして欲しい。</p>	<p>本計画（案）では、活動指標において、グループホームの重要性に配慮した数値目標を設定しました。</p> <p>現状ではグループホームの運営費に対する支援の予定はありませんが、施設整備補助により初期費用を助成することにより、間接的に運営を支援することとしております。（原案のとおり）</p>
13	60歳代女性	24	入院中の介護のサービスがほしいです	<p>入院中は、基本的に病院の看護により介助が行われると考えられます。ご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。</p> <p>なお、本市では入院中の支援として「重度障害者入院時コミュニケーション支援事業」を実施しております。この事業は、言語機能の障害等により意思疎通が困難な方を対象として、入院中の意思疎通を支援するために、コミュニケーション支援員の派遣を行うものです。（原案のとおり）</p>
14	60歳代女性	29	余暇活動を増やして欲しい	スポーツ・文化活動などの余暇活動は生きがいくくりとして重要なものと認識しております。本計画（案）では、「スポーツ・レクリエーション教室開催事業」として開催回数、参加者の増加に取り組んでいくこととしております。（原案のとおり）
15	50歳代女性	その他	特別支援学校高等部卒業後の専攻科を作してほしい。	ご意見につきましては、今後の取組みの参考とさせていただきます。
16	50歳代女性	その他	高等部の放課後の部活動（スポーツ等）の時間を作してほしい。	ご意見につきましては、今後の取組みの参考とさせていただきます。
17	60歳代女性	その他	大学の授業の中にボランティア活動を授業の単位とする活動をさせてほしい。その体験から、ボランティアにつなげていけるように…。	福祉の分野でもボランティアの果たす役割は大きいものと認識しておりますが、本計画（案）の内容と直接関連がありませんので参考意見とさせていただきます。